2022年12月4日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師　乾元美

申命記6：4～5
マタイによる福音書28：16～20
「三位一体」
（ハイデルベルク信仰問答　第二部　問24～25）※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【前奏】【招詞】詩編24：9～10
【祈祷】
【聖書】申命記6：4～5、マタイによる福音書28：16～20
【説教】「三位一体」
＜まことの信仰・使徒信条＞
　前回の主日礼拝で、わたしたちは「信仰」についての御言葉を聞きました。
　わたしたちは、恵みにより、信仰によって救われた。それは、わたしたちの力ではなくて、神さまからの賜物なのだと（エフェソ2：8）。信仰は、神さまから与えられるものです。

　そして、前回のハイデルベルク信仰問答、問21によれば、その「まことの信仰」とは、「確かな認識」と「心からの信頼」のことであると語られていました。
　確かな認識とは、聖書の御言葉が示す、神さまの愛が、イエスさまが実現して下さった救いの恵みが、確かに真実であると知ることです。
　また、心からの信頼とは、聖霊の導きによって、その知らされた救いの恵みが、このわたしを救うためのものであると知り、神さまを心から信頼して、その救いの恵みを受け取ること。それが、「まことの信仰」です。

　この「まことの信仰」において、わたしたちが真実であると確信すべきこと、信じるべきことが、「使徒信条」という信仰の箇条に要約されています。それで、これからはしばらく、この「使徒信条」の内容を丁寧に紐解いていくことになります。
　ここには、聖書全体の御言葉からわたしたちに示された、神さまのこと、救いのこと、約束のこと、希望のことが、短く要約されています。これらを、キリスト教の教会は、「使徒信条」として、「これを信じます」、「これは真実です」と、皆で告白してきたのです。

　この使徒信条は、時代も超えて、場所も超えて。またローマ・カトリック教会も、東方教会も、プロテスタント教会も超えて。イエスさまの救いを信じる、すべての教会が告白すべき、信仰の箇条です。
　今日のわたしたちの礼拝においても、使徒信条を告白します。それぞれの座席のポケットのボードに書かれていますので、ご覧ください。教会の初期の時代から、わたしたちの教会もまた、今も変わらず、この「まことの信仰」を受け継いでいるのです。

求道者の方が洗礼を受ける時には、この代々の教会が受け継いできた「使徒信条」が言い表している信仰を、わたしの信仰として告白します。それは、ここに語られている救いの恵みを、わたしの救いの恵みとして受け取るということです。
そうして、この信仰を告白する教会の群れに加えられていくのです。

＜使徒信条の構造＞
さて、今日のハイデルベルク信仰問答は、まずこの使徒信条の構造について語っています。使徒信条全体を見てみると、三つの段落からなっていることが分かります。一段落目が一行だけ、二段落目がとても長く、三段落目は数行からなります。
その一段落目は、「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。」
二段落目は、「我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。」
三段落目は、「我は聖霊を信ず。」となっています。
つまり、使徒信条は、父なる神、子なる神イエス・キリスト、聖霊なる神の、三位一体の神さまを信じているということを、その構造全体で言い表しているのです。

＜三位一体＞
三位一体。これは、とても理解するのが難しい、キリスト教の教理です。神は唯一である。また同時に、父、子、聖霊なる、三つにいます神である。三つだが、一つである。このことは、わたしたちが合理的に理解できるものではありません。
三位一体の「位」という字は、「み」と読んだり「い」と読んだりしますが、これは「位格」という言葉を表しています。それは人間で言うなら「人格」という言葉に近いかも知れません。唯一の神さまは、父、子、聖霊という、三つの「位格」をお持ちです。三位一体とは、お一人の神さまの内に、三者の区別と、関係性がある、交わりがある、ということです。

三つの位格は、それぞれ区別されるということですから、これは、一人の神さまが、三つの役割を場面によって使い分けている、ということではありません。それだと結局、一人の神さまが、一人芝居をしているだけのことになってしまいます。
また、やはりそれならば、唯一ではなくて、三人の神さまなのだ、とも言うことができません。聖書は、神は唯一である、と語っているからです。

…この三位一体、という言葉そのものは、教会が生み出した言葉であり、聖書にそのまま出てくる言葉ではありません。
しかし、旧約聖書から新約聖書にわたって、聖書全体を神さまの御言葉として聞こうとするならば、神さまが「三位一体」の神である、と信じるのでなければ、聖書を正しく読むことが出来ないのです。「まことの信仰」に生きることが出来ないのです。
カルヴァンという神学者は、三位一体を否定すれば、必然的に福音そのものを否定することになる、と語っています。

なぜなら、この「三位一体」は、人間が考え出したものではなく、「聖書」そのものが、全体を通してわたしたちに示している、神さまのお姿だからです。それはつまり、神さまがご自分のことを、ご自分でそのように示された、自己紹介なさった、ということです。
わたしたちは、それを受け入れ、信じることしかできません。

今日のハイデルベルク信仰問答の問 25 にはこうありました。
「ただ一人の神がおられるだけなのに、なぜあなたは父、子、聖霊と三通りに呼ぶのですか。」
「答　それは、神がご自身についてそのように、すなわち、これら三つの位格が唯一まことの永遠の神であると、その御言葉において啓示なさったからです。」
神がご自身についてそのように、御言葉において啓示なさったから。これが、「三位一体」を信じる理由です。だから、唯一まことの永遠の神は、父、子、聖霊なる神さまなのです。

＜唯一の神、三つの位格＞
さて、神は唯一である。まず、今日読まれた御言葉、申命記 6：4 には、「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。」とありました。「我らの神、主は唯一の主である」。
この唯一の主である神さまが、イスラエルの民に語りかけ、救いのご計画を示し、そして救いを実現するために、神の独り子なるイエスさまを遣わされました。そして、御子イエスさまが十字架と復活の御業を成し遂げ、天に上げられると、聖霊なる神さまが遣わされ、信仰によって救われた新しい神の民、教会が誕生したのでした。

旧約聖書の時代と、新約聖書の時代で、神さまが変わったのではありません。また、唯一の主なる神である、と言われていた神さまが、多神教の神になったのでもありません。
神さまは、永遠に唯一なるお方である。御言葉に示されたこの信仰は、決して変わることはないのです。

それならば、と初期の教会では論争も起こりました。それならば、やはり父だけがまことの唯一の神で、イエスさまは、素晴らしい特別な最高の人間だったけれども、やはりまことの神ではなかったのではないか。また聖霊は、本当に一つの人格を持つ神なのだろうか。
でもイエスさまが、まことの人になられた、まことの神でなければ、わたしたちの仲保者となって、わたしたちの罪を贖い、新しい命を与えることはお出来になりません。イエスさまが、まことの神であるからこそ、わたしたちは罪の赦しを得ることが出来たのです。
同様に、聖霊なる神さまも、一つの位格を持つ神なるお方です。ペンテコステの日、聖霊は天から下り、弟子たちの上に現臨されました。そして、今も教会に生きて働かれ、わたしたちに御言葉を示し、信仰を与え、イエスさまを主であると告白させ、聖礼典によって、イエスさまとわたしたちを一つに結び合わせて下さいます。また、教会の交わりを築かせて下さいます。
確かに、御子イエスさまも、聖霊も、父とともに神であり、生きて働いておられるのです。そして、唯一のまことの神さまなのです。聖書が、そう語るのです。

ですから教会は、聖書に基づいて、三位一体の神さまを信じる信仰を、正統な信仰として受け入れ、告白し、伝えてきたのです。

…もう一か所、今日読まれた新約聖書のマタイによる福音書 28：19 は、復活なさったイエスさまが天に上げられるときに、弟子たちに語られた御言葉です。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」
ここに、三位一体の神さまが、まさに語られています。イエスさまがお命じになった通り、わたしたちが洗礼を受ける時には、「父と子と聖霊の名によって」洗礼を受けます。父と、子と、聖霊なる神さまのお働きによって、わたしに救いが与えられるのだ、ということを信じるのです。
しかし、このマタイの聖句が、神さまが三位一体であることの根拠となったのではありません。根拠は、聖書全体です。聖書を読めば、三位一体の神さまの存在、お働きを、認めざるを得ないのです。

これは、わたしたちの理解や、常識や、思いを、大きく超えていることです。信仰の「秘儀」とも言われます。それはまさに、信じるしかないことです。
しかし、唯一の神さまが、父、子、聖霊なる三つの位格をお持ちの神さまであることは、罪の悲惨の中に陥っていたわたしたちが、救いに与るためにこそ、慰めに与るためにこそ示された、神さまのお姿、神さまのお働きなのです。

＜わたしたちのためのお働き＞
信仰問答の問 24 には、使徒信条が、三つの構造によって、父、子、聖霊なる神さまを言い表していることと、それぞれのお働きの特徴が語られていました。
「これらの箇条はどのように分けられますか。」「答　三つに分けられます。第一に、父なる神と、わたしたちの創造について、第二に、子なる神と、わたしたちの贖いについて、第三に、聖霊なる神と、わたしたちの聖化についてです。」

それぞれ、父なる神は創造、子なる神は贖い、聖霊なる神は聖化、となっています。
しかしこれは、それぞれの特徴的なお働きを強調しているのであって、三位一体の神さまはお一人の神ですから、父も、子も、聖霊も、すべてのお働きに関わっておられます。

でもここで、最も大切なのは、すべて「わたしたちの創造」「わたしたちの贖い」「わたしたちの聖化」と書かれていることです。「わたしたちの」。
聖書に示されているのは、「わたしたちの」ために、この「わたし」の救いのために、父なる神さまが、子なる神さまが、聖霊なる神さまが、どのように働いて下さったか、ということなのです。

ですから、三位一体の信仰は、それをわたしたちが頭で理解すること、合理的に納得することを求めていません。そうではなく、このわたしが、今ここに命を与えられて存在し、罪から救われ、神に向かって生きるものとされている。その、わたしのためになされた恵みの御業が、どのような方によって、どのように示され、どのようになされたか。
「三位一体」は、そのことを知るための道として、わたしたちに与えられているのです。

＜創造、贖い、聖化＞
さて、わたしたちの、創造、贖い、聖化。そのお働きについては、これから一つ一つ使徒信条を見つめつつ、御言葉から聞いていきます。
創造、贖い、聖化の御業は、旧約聖書から新約聖書、またその後の、わたしたちに続く教会の歩みにおいて、この世界の歴史の中で、人類の歴史の中で、父、子、聖霊なる神さまが成して下さったお働きです。三位一体の神さまが、この世をお造りになり、救いの御業を成し遂げ、そして、世の終わりの日まで、教会を導いて下さる、その救いの歴史の御業です。

また同時に、創造、贖い、聖化は、わたしたち一人一人に起こる出来事です。
父なる神さまは、このわたしを、愛をもってこの世に存在せしめて下さいました。わたしを創造し、命を与えて下さいました。
そして、罪を犯したわたしを救うために、父なる神さまは、御子イエスさまをお遣わしになり、この方が十字架の死によって、わたしのために罪の贖いを成し遂げて下さいました。
そして、このわたしに聖霊なる神さまが働いて下さり、御言葉によって信仰を与え、神さまを知り、救いを信じる者として下さいました。そして、神さまと共に生きる者として、これからも導いて下さいます。聖霊の項目で語られている「聖化」とは、ますます神さまのものとされていく、ますます神さまに喜ばれる者になっていく、ということです。

…聖書の御言葉から示されているのは、人の理解を超えた、「三位一体」という言葉でしか言い表せない神さまが、わたしたちの思いを超える仕方で、わたしたちを愛し、わたしたちを救い、わたしたちと共にいて下さるということです。
聖書に表されたのは、わたしたちを救うために、あらゆる仕方で働いて下さり、あらゆる恵みを与えて下さる、父と、子と、聖霊なる、まことの唯一なる神さまのお姿です。
この神さまの愛を信じることが、救いの恵みを信じることが、共にいて下さると信じることが、「三位一体」の神さまを信じる、ということなのです。

＜愛の交わり＞
昔の神学者は、三位一体のことを、お一人の神が、ご自身の中に交わりを持っておられるということだ、と言い表しました。そして、その交わりのことを、「愛」と呼びました。
お一人の神ご自身が、その内に、父、子、聖霊なる、このような愛の交わり、愛の関係性を持つお方である。だからこそ、神さまは、わたしたち人間もまた、御自分との愛の交わり、また隣人との愛の交わりに生きるものとして、創造して下さった、というのです。

わたしたちもまた、この三位一体の神さまにあって、愛の交わりの中で、共に一つとなって生きる者とされているのです。

三位一体とは、考えることを放棄させる、非合理的な、妄信的な言葉なのではありません。
ここで今、わたしたちが御言葉を聞き、罪を赦され、救われ、教会に連なって、神さまを礼拝する者とされている。この恵みが、父なる神さまの愛によって、御子イエスさまの救いの御業によって、聖霊なる神さまの導きによって与えられている。このことを信じ、まことの神さまを賛美する言葉が、「三位一体」という言葉なのです。
そして、愛の交わりにあって一つであられる、三位一体なる神さまによって、わたしたちもまた、神さまとの愛の交わりに、また隣人との愛の交わりに生きる者とされている。神さまと一つになって、隣人と一つになって、共に生きることへと、招かれているのです。

【お祈り】
父、子、聖霊なる、三つにいまして一つなる神さま。
あなたが、御自分が三位一体なる神であられることを、御言葉を通してお示しになりました。唯一まことの永遠の神でありながら、三つにいまして、わたしたちを愛し、救いのご計画を与えて下さる父なる神さまを。わたしたちの贖いの御業を成し遂げて下さる、子なるイエスさまを。わたしたちに信仰を与え、導いて下さる、聖霊なる神さまを、わたしたちは信じます。
また、愛の交わりを持たれる三位一体のお姿は、わたしたちが愛の交わりに生きることを望んで下さり、その恵みへと招いて下さるお姿です。
三位一体の神さまを、そこに示された恵みを、信じることが出来ますように。また、わたしたちを、あなたの愛の交わりに生きる者として下さい。
このお祈りを、救い主イエスさまの御名によって祈ります。アーメン

【讃美歌】３５１「聖なる聖なる」
【信仰告白】使徒信条
【聖餐】
【讃美歌】７９「みまえにわれらつどい」
【献金】
【主の祈り】
【讃美歌】２５「父、子、聖霊に」
【祝福】主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン